

### 久留米大学で実行された改革

- カリキュラムの全面改定
  - 1-2年生で実行済み、第2学年の総合試験実施
  - 協同学習を積極的に取り入れて協同の精神性を高める
  - 第3学年:集中型講義, 50分の講義時間, 座席指定, IT利用シラバスと教育評価, 総合試験
  - 3年生のPBLチュートリアルを廃止して長期研究室配属に変更
- 学習環境整備
  - 自主学習室の整備
  - 合同学習会, 合宿と集中講義
  - メンタル・ケア担当部署の設置

### 久留米大学で残された課題

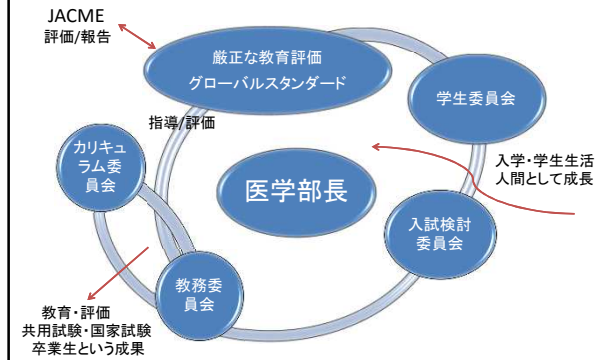
- カリキュラムの全面改定
  - 第4学年集中型講義、総合試験
  - 共用試験・国試対策への配慮
  - 第4学年からの臨床クラークシップ開始と改革
  - 第6学年での真の診療参加型臨床実習の実施
  - 進級・卒業判定の厳格化
- 行動科学の継続性の確保
  - 第1から第4学年のらせん型発展を確実なものにする
- 環境整備
  - シミュレーションセンター・IT・AV・教室
  - 整理整頓
- プロフェッショナリズムと態度評価

臨床クラークシップを中心とした考え方  
—教員と学生が同じ意識を持つ—

	M1-M4	M4	M4-5	M6
実習		PCCE	CC (4-5)	CC (6)
基本的臨床技能	診療参加のための 発表準備		知識と経験の整理と診療 参加への準備	臨床研修の始まり
	基本的臨床技能獲得型実習		経験学習型臨床実習	診療参加型臨床実習
評価(実技)	共用試験OSCE			PostOC OSCE
評価(知識)	共用試験CBT		M5総合試験CBT	M6総合試験
成績下位対策		週一の集合学習 CBT再試対応	CBT落第対応(M4) 土曜日の集合学習 合宿	再試験 合宿

臨床実習の意義		
1-4年	基本的臨床技能獲得型実習	見学し、触れて、自ら考えて基本的臨床能力を得る
4-5年	経験学習型臨床実習	知識を持って臨床へ行き、経験と整合させる臨床能力を得る
6年	診療参加型臨床実習	医師を手伝うことで、医師になるのに必要な臨床能力を得る

### 久留米大学における委員会の関連性



# 医学—産業医科大学

## 産業医科大学の理念・目的

産業医科大学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき、医学及び看護学その他の医療保健技術に関する学問の教育及び研究を行い、**労働環境と健康に関する分野**におけるこれらの学問の振興と人材の育成に寄与することを目的及び使命としています。

## 医学部 教育上の理念

働く人々の健康と環境に医学の眼でアプローチする産業医は、産業の発展と活性化を支える意味からも、21世紀において極めて重要な役割を担っています。医学部では、**医学を産業社会の中でより深く、より広い視野から考えることのできる人間性豊かな産業医を養成**します。

## 産業医学

- I(1年次) 序論
- II(2年次) 労働衛生一般、放射線衛生学
- III(3年次) 作業環境管理、作業管理、有害業務管理
- IV(4年次) 健康管理、メンタルヘルス、健康の保持増進対策
- V(5年次) 産業医学現場実習、産業医学シミュレーション実習
- VI(6年次) 治療と職業生活の両立支援
- 卒業後 産業医学総合実習

卒前6年間 246時間 卒後 10時間

上記課程+医師国家試験合格→産業医資格(安衛則第14条第2項第2号)

## 総合教育 必修

- 心理学
- 人間関係論
- 哲学入門
- 数学概論
- 英語I, II
- 医学概論I-IV
- 総合教育セミナー
- **医療統計学**

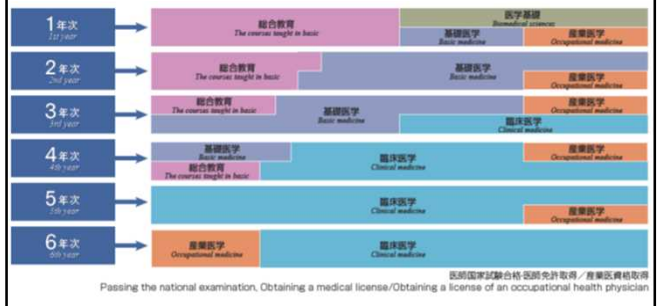
## 総合教育 選択

- 文学思想史
- 英語運用論(TOEIC入門)
- 法学概論
- 経済学入門
- 自然科学思想史
- 生命科学・環境科学概論
- 動物倫理学
- 医療社会学
- **医用工学入門**
- ドイツ語
- フランス語

## 医学概論

- 1年次 Early Medical Exposure
- 2年次 **生命倫理**・医学史
- 3年次 コミュニケーション医学  
医療人類学(**東洋医学**)
- 4年次 漢方医学各論、臨床死生学、**臨床倫理学**、医療面接実習
- 6年次 アドバンスト**臨床倫理**

## 現行カリキュラム



## 新カリキュラム


- 参加型臨床実習を4年次1月に開始
- 解剖学、生理学の一部を1年次に前倒し
- 低学年での早期臨床体験、実習を拡充
- 現行の研究室配属10週間を3年次6月から夏休みにかけて実施
- 現行の「遺伝子診断治療学」を充実
- 6年次に「症候論統合講義」
- 6年次に就学・就労と治療の両立支援に関する講義

## 福岡大学のカリキュラム案

福岡大学医学部  
医学教育推進講座 安元佐和

Fukuoka University Medical Education Center

### 福岡大学医学部の卒業時学修成果



*Relationship Intelligence*      *Gentleness Health Teaching*

#### 福岡大学医学部医学科の使命(ミッション)

医療のプロフェッショナルとしての誇りと広い視野を持ち、患者に寄り添い、地域社会に貢献する医師の育成

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に

- 自尊心と高い倫理観を有し、他者と信頼関係を築くことができる
- 確かな知識と技能に基づいた、人にやさしい医療を実践できる
- グローバルな視野で地域の健康増進と疾病予防に貢献できる
- 科学的探究心、論理的思考を身に付け、教育的指導ができる

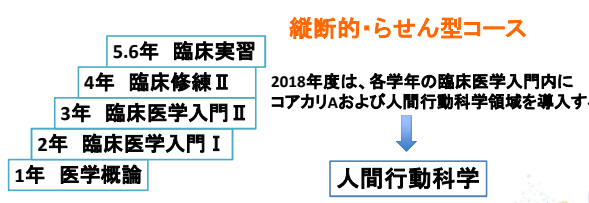
上記の学修アウトカムは以下のコンピテンスの領域(I~VI)ごとのコンピテンシー(43項目)で構成

### A 医師として求められる基本的資質・能力

課題: 6年間にわたっての縦断的カリキュラムなし

見直し案 コアカリ A+ B4 C5

縦断的・らせん型コース



2018年度は、各学年の臨床医学入門内に  
コアカリAおよび人間行動科学領域を導入する

人間行動科学

Fukuoka University Medical Education Center

### 教養課程の見直し案

コアカリ A3 B4 C5

課題: 福岡大学は、10学部をもつ総合大学  
教養課程では、共通の必修科目(体育実技)  
必修科目が理系科目に偏っている。

見直し案

必修科目: **社会医学系**  
コアカリに関連した心理学、社会学、文化人類学  
体育実技→スポーツ健康科学理論、運動療法

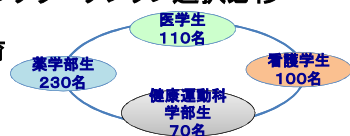
Fukuoka University Medical Education Center

### 地域医療 B1-7 G4-3+A-5

課題: 地域包括ケア、地域連携の実践教育の不足

見直し案

- 病院内実習: 地域支援センター  
退院指導、地域保健、福祉制度
- 学外クリニカルクラークシップ選択必修
- 多職種連携教育  
チーム医療



Fukuoka University Medical Education Center

## 臨床参加型実習への 基礎整備

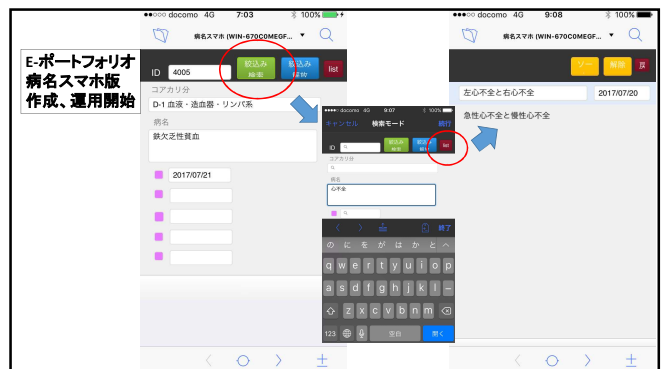
防衛医大

### 問題意識の醸造

- アーリーエクスポージャーの充実
  - M1のみ→M1,2,3各々1週間を確保
- 見学型から参加型
  - 関連医療施設の充実
  - 訪問看護など地域保健医療関連施設への学生参加
- 他職種連携の基礎
  - 看護学科との共同授業

### 基礎学力の担保と自己学習評価

- 解剖、生理、生化学の重点化(M2)
- ワンポイント屋根瓦式(M3,4)
  - 同じ話の繰り返しによる学生の意欲消退を最小限に抑えるワンポイントtips
- コアカリ病名の学習記録
  - →eポートフォリオもどき。学習した自分の記録をクラウドに保存
- BSLで実際に患者を診た時の評価
  - →mini-CEXもどきで記録。手書き部分はsiriで入力







**東京医科歯科大学歯学部歯学科**  
H29年3月改訂モデル・コア・カリキュラム内容を踏まえた新カリキュラム案の概要と特色

東京医科歯科大学歯学部歯学科 新カリキュラム

基本的理念

豊かな人間性を教し、使命感をもって人々に必要な歯科医師を養成し、国家の健康の維持・増進に寄与するとともに、国際的視野から歯科医学・歯科医療の向上に貢献できる指導者を育成する。

【教育理念】 歯科教育の発展のために、いかなる分野においても能力をもって指導的役割を果たすことのできる人材。

一般教育目標

・幅広い教養を身につけ、歯科医師としての豊かな人間性を培う。  
・基本的な学習態度と職業倫理、生活制の知識を修得する。  
・科学的探究心をもとに、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける。  
・全人的成長と発展を期して、自己学習能力・問題解決の能力の半歩、診断、治療に際する知識および基本的技能を修得する。  
・社会における歯科医学・医療の役割とその発展性を理解する。

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
基礎	基礎+基礎 総合実習	基礎+基礎 総合実習	臨床+基礎 総合実習	臨床+基礎 総合実習	臨床+基礎 総合実習	臨床+基礎 総合実習
臨床						
研究						
国際交流						

- 1) 1年次教から教養部と連携した学部教育の実施  
→A-1 プロフェッショナリズムの初期段階の育成  
C-1 基礎自然科学
- 2) 良質な歯科医師となるための修業を6年一貫して育成  
→A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力
- 3) 問題発見・問題解決・自己学習能力を向上  
→A-2 医学知識と問題対応力
- 4) 基礎能力の向上+複数の海外研修派遣プログラム  
→A-3 国際医療への貢献
- 5) 研究マインドの育成カリキュラムの充実  
→A-8 科学的探究  
→A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- 6) 歯医学融合教育の実施  
→E-5 英語習得・読解力・精神・心身医学的夜直  
→E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
- 7) モデル・コア・カリキュラム対応統合型カリキュラムの導入  
→B、C、D、E領域すべてカバー
- 8) シミュレーション実習を中心とした模擬実習  
→F シミュレーション実習（模擬実習・相互実習（実習））
- 9) 診療参加型臨床実習（チーム医療、多職種連携実習、学外訪問実習などを含む）  
→A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力  
→G 臨床実習（学生診療室での自験と各科ローテーション実習）
- 10) 全国統一臨床能力試験への参加

**入学時から良き歯科医師になるための行動科学的プログラムを導入**

新入生オリエンテーション

3年次 歯学科学実習

5-6年次 包括臨床実習

1年次 早期臨床体験実習

4年次 研究実習

2年次 行動科学基礎

6年次 患者対応推進セミナー

3-6年次 国際交流

**歯医学融合教育の目的**

- ・ 歯医学の基盤（英語、医療統計、生命倫理）、解剖学、生理学、老年医学、頭頸部臨床医学（耳鼻科、眼科、口腔外科など）を医学科学生と共に学ぶ。
- ・ 全学科の最終学年学生全員で包括医療統合教育（チーム医療入門）を実施する。他学の薬学部、社会福祉学部や患者さんの会とも連携。
- ・ 医学のバックボーンを確実に固めてから歯学の臨床を身につける。
- ・ 歯学生と医学生がお互いの臨床実習の実際を見学することで、それぞれの臨床の場を実践的に経験する。
- ・ 急激に進歩している生命科学を歯学に適用し、超高齢社会の歯科医療に対応する。

**歯医学融合教育-チーム医療入門**

**東京医科歯科大学の技能準備教育の特徴**

マネキンによる  
模型実習

シミュレーション  
機器による  
模擬臨床体験

各診療科配属・  
症例分析

平成29年度 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ  
2017年7月26日(水) 東京慈恵会医科大学

## 新潟大学歯学部の新カリキュラム —学位プログラムとモデル・コア・カリキュラム—

新潟大学歯学部 副学部長(学務担当)

小野 和宏

1

## 歯学教育プログラムの卒業認定・学位授与の方針

変化の激しい現代社会のなかで、新たな諸課題に関係者と適切に連携しながら問題解決を図っていく能力を備え、全人的医療を実践できる高い歯科臨床能力を有する者に学位を授与する

### 歯学部の人材育成目標

学士課程教育を歯科医療従事者としての生涯学習の最初の段階と位置づけ、問題解決能力の育成を重視し、その後に続く大学院や実社会での学習のなかで専門性を主体的に向上させる人材を育成する

### 新潟大学の学生が身につけるべき能力

本学は、地域や世界の着実な発展に貢献することを目的とし、高い見識と良識をもって社会や時代の諸問題に的確に対応し、課題解決のために広範に活躍できる人材を育成する

- そのため、各教育課程の中で以下の能力を養成する
- 課題を発見し、それを解決する能力
  - 課題解決に必要な知識・技能を主体的に学修する能力
  - 課題に協動的に取り組むためのコミュニケーション能力

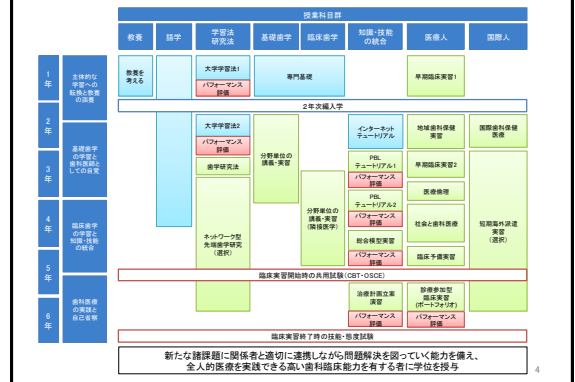
2

## 歯学教育プログラムの到達目標

知識・理解		
1	グローバル社会における経済、社会、生物学的な相互依存関係を理解し、自然ならびに人間社会・文化に対する理解を深める。	国際教養
2	人間の成長、発達、老化および健康に関する基礎科学を理解する。	専門基礎科学
3	口腔の健康や病態の基礎を学ぶ口腔生物学を理解する。	基礎科学
4	歯科医療に影響を及ぼす医学、歯学、基礎科学の最新の成果を理解する。	関連・最新科学
5	口腔疾患の徴候と予防、医学、ならびに病態、診断と治療の原理・原則を理解する。	臨床歯学
6	歯科医療の実践が尊重される高品質、倫理的医療を理解する。	医療倫理
7	医療提供体制と医療保険制度を理解する。	社会医療
専門的能力(分野固有の能力)		
8	歯科医療において適切な感染予防対策を行う。	感染予防
9	歯科医療において安全の確保を行う。	安全確保
10	患者に対して有効な健康教育を行う。	患者教育
11	インフォームドコンセントの原則を遵守し、患者の権利を尊重する。	患者権利
12	科学的根拠に基づいた歯科医療を実施し、その成績を評価する。	歯科臨床能力
13	正確な患者の記録を採録し、適切に保管する。	医療管理
汎用的能力		
14	自ら問題を見つけ、解決策を立案し、問題を解決する。	問題解決能力(自己学習能力)
15	期待かつ批判的に考え、新機軸や学習の成果を統合して思考を進める。	論理的思考力
16	自己発覚して、行動や成果を定期的に評価する。	自己評価能力
17	統計スキルを用いてデータを処理し、数量から意味を見出す。	数量に関する運用能力
18	日本語や英語により口頭で、また文書を用いて有効なコミュニケーションを行う。	コミュニケーション能力
19	自主学習のためのITを活用する。	コンピュータ運用能力
20	チームのメンバーと協働して活動するとともに、リーダーシップを発揮する。	対人関係能力
21	時間管理と優先順位づけを行い、定められた期限内で活動する。	時間管理能力
態度・姿勢		
22	倫理的、道徳的、科学的な意思決定を行い、結果に対して自己責任を負う。	意思決定
23	さまざまな文化や価値観を尊重し、個性を尊重する。	価値判断(共感的・受容的態度)
24	自分の利益の追求に患者ならびに公共の利益を優先する。	職業・公共意識

3

## カリキュラムのアウトラインと評価プラン



4

## 歯学教育プログラムとモデル・コア・カリキュラムの関係

	本学の学位プログラム	モデル・コア・カリキュラム
学習目標の設定 (コンピテンツ・ベース)	・大学の教育理念にもとづき最も重要と考える問題解決能力「歯科臨床能力をディプロマポリシーとして設定」 ・ディプロマポリシーで定める力を、「知識・理解」「専門的能力」「汎用的能力」「態度・姿勢」の4領域に分類し、学位プログラムの到達目標として提示	・9つの基本的な資質・能力を設定「プロフェッショナリズム」「医学知識と問題対応能力」「診療技能と患者ケア」「コミュニケーション能力」「チーム医療の実践」「医療の質と安全の管理」「社会における医療の実践」「科学的探究」「生涯にわたって共に学ぶ姿勢」
学習目標の設定 (コンピテンツ・ベース)	・各授業科目の到達目標にモデル・コア・カリキュラムの学習目標を包含	・項目Aは、9つの基本的な資質・能力を構成する下位項目を設け、それぞれの学習目標を設定 ・項目Aは項目B-Gを包含するという関係になっているが、項目B-Gでは、9つの資質・能力、あるいは項目Aとの対応は示されず、それぞれの学習目標を設定
カリキュラム編成	・カリキュラムマップを作成し、学位プログラムの到達目標と各授業科目の対応を明示	・基本的にカリキュラム編成に言及せず
学習成果の評価 (コース・レベル)	・ディプロマポリシーに関連するいくつかの授業科目でパフォーマンス評価を実施	・基本的に学習成果の評価に言及せず
学習成果の評価 (プログラム・レベル)	・初年次から最終年次にかけて段階的に専門性・総合性・真正性を高めた多様なパフォーマンス評価により卒業生の質を担保 <b>組み込み型アセスメント</b>	・臨床実習開始時の共同試験(CBT-OSCE) ・臨床実習終了時の技能・態度試験 <b>追加型アセスメント</b>

5



**大阪大学のディプロマポリシー**

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所属学部において定める専門分野に関する知識・技能並びに教養・デザイン力・国際性を身に付け、所定の単位を修得し学部規程に定める試験に合格した学生に学位を授与します。

**大阪大学歯学部のディプロマポリシー**

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、歯学部では、口・顎・顔面領域に基盤をおいた生命科学分野を対象として、

1. 深い学識と最先端の専門的知識
2. 歯科医療に関する十分な技能
3. 医療人としての真摯な態度と使命感
4. 歯科医療人としてのデザイン力・国際性
5. 目的意識と向上心に溢れた強い自立心を身に付けた学生に対して学位を授与します。

**大阪大学歯学部での教育成果（卒業コンピテンス）**

**A. プロフェッショナリズム**  
大阪大学歯学部学生は、卒業時に、患者、家族および医療従事者の相互関係の中でお互いを尊重しながら、歯科医師という専門職として医療を実践するのに必要な態度および倫理観を有して行動できる。

**B. コミュニケーション**  
大阪大学歯学部学生は、卒業時に、歯科医療の現場において適切なコミュニケーションを実践できるとともに、国際的な視座をもって歯科医学・医療に関する情報を入手し発信することができる。

**C. 歯科医学およびそれに関連する領域の知識**  
大阪大学歯学部学生は、卒業時に、歯科医療を実践するのに必要な基礎および臨床の知識を有し、それらを用いることができる。

**D. 歯科医療に関する技能およびそれを実践できる態度**  
大阪大学歯学部学生は、卒業時に、患者のもつ社会的、個人的背景を尊重した上で、必要に応じて多職種と連携しながら適切で効果的な歯科医療を実践できる。

**E. 歯科医学に関する科学的な研究**  
大阪大学歯学部学生は、卒業時に、基礎および臨床の領域での研究の意義を理解し、それらに対して論理的かつ批判的な思考ができる。

### 大阪大学歯学部の現行カリキュラム

1	2	3	4	5	6
					共用試験
教養科目	(1)	専門臨床科目	臨床実習		
導入科目	専門基礎科目	隣接医学(2)	統合科目		

(1) 教養科目(生命倫理・法・経済)の高年次(3年次)配当 (医療系学部合同)  
(2) 一部隣接医学を他の医療系学部と合同で講義

**新モデル・コア・カリキュラムの概要**

歯科医師として求められる基本的資質・能力

社会と歯学

生命科学      歯科医療機器

臨床歯学      臨床参加型臨床実習

シュミレーション実習

### 多様なニーズに対応できる歯科医師の養成

共通教育(教養科目)カリキュラムの改編

- (1) 4学期制(ターム制)の導入
- (2) 教養教育科目の再編成
- (3) 教養教育科目、国際性涵養教育科目の高年次配当

超高齢化社会への対応するカリキュラム改編

共用試験

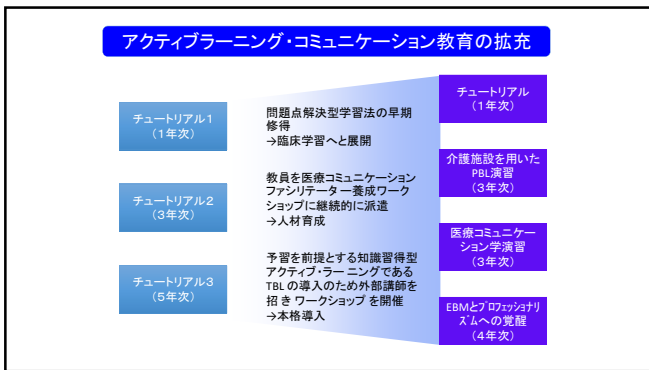
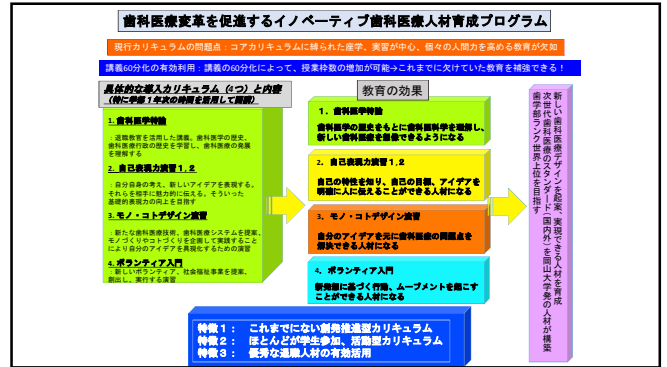
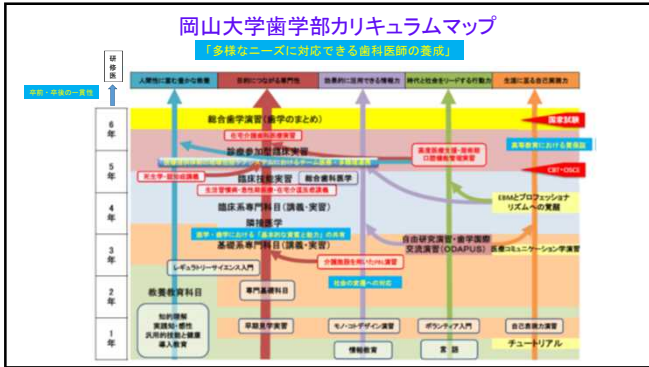
教養科目	専門臨床科目	臨床実習
導入科目	専門基礎科目	隣接医学
統合科目		

基盤形成	基礎的な知識、態度、技能が備わっている	卒業時に求められるコンピテンシー
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療人として必要な倫理観について説明できる。</li> <li>2. ライフステージに配慮したコミュニケーションがとれる。</li> <li>3. 多職種が連携して地域医療が成り立っていることを理解できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療人として必要な倫理観を身につけている。</li> <li>2. コミュニケーションの目的と技法(言語的、非言語的)を理解し、実践できる。</li> <li>3. 高齢者に対して歯科治療を実践するのに必要な基本的な知識を備えている。</li> <li>4. 多職種によるチーム医療を実践するのに必要な基本的な知識を備えている。</li> </ol>	超高齢社会に対応するために歯科医師として求められる倫理観および多職種と連携した医療を実践するために必要となる基本的な臨床能力を有している。

### 「超高齢化社会への対応」に関する教育カリキュラム

教養科目	専門臨床科目	臨床実習
導入科目	専門基礎科目	隣接医学
統合科目		

コンピテンシー	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A. プロフェッショナリズム						
医療倫理・研究倫理に関する知識と態度を身につける	●	●				●
B. コミュニケーション						
患者及びその家族と良好な信頼関係を築く	●					●
C. 歯科医学およびそれに関連する領域の知識						
適切に保健・医療・福祉・介護を提供するために、社会制度、地域医療及び社会環境を理解する			●			●
高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する				●	●	●
チーム医療、地域医療、病診連携についての知識を修得する					●	●
D. 歯科医療に関する技能及びそれを実践できる態度						
保健・医療・福祉・介護及び患者に関わる全ての人の役割を理解し、連携する	●					●
地域医療に貢献するための能力を身につける						●
チーム医療、地域医療、病診連携についての技能及び態度を修得する	●					●





歯学教育モデル・コア・カリキュラム平成28年度改定の概要

領域	内容
(1)	基礎的知識(1)モラル・コア・カリキュラム、基礎的臨床技能、臨床業務の関連目標の達成
(2)	種々の応用(1)医学、歯学の専門知識・コア・カリキュラムの一部共有化
(3)	「臨床現場として求められる基本的な資質・能力」の養成化
(4)	診療参加型臨床実習の充実 (臨床実習 別表「臨床実習の内容と分類」)
(5)	国際社会への対応 (A-1)国際化・国際化 A-2)国際化 A-3)国際化 A-4)国際化 A-5)国際化 A-6)国際化 A-7)国際化 A-8)国際化 A-9)国際化 A-10)国際化 A-11)国際化 A-12)国際化 A-13)国際化 A-14)国際化 A-15)国際化 A-16)国際化 A-17)国際化 A-18)国際化 A-19)国際化 A-20)国際化 A-21)国際化 A-22)国際化 A-23)国際化 A-24)国際化 A-25)国際化 A-26)国際化 A-27)国際化 A-28)国際化 A-29)国際化 A-30)国際化 A-31)国際化 A-32)国際化 A-33)国際化 A-34)国際化 A-35)国際化 A-36)国際化 A-37)国際化 A-38)国際化 A-39)国際化 A-40)国際化 A-41)国際化 A-42)国際化 A-43)国際化 A-44)国際化 A-45)国際化 A-46)国際化 A-47)国際化 A-48)国際化 A-49)国際化 A-50)国際化 A-51)国際化 A-52)国際化 A-53)国際化 A-54)国際化 A-55)国際化 A-56)国際化 A-57)国際化 A-58)国際化 A-59)国際化 A-60)国際化 A-61)国際化 A-62)国際化 A-63)国際化 A-64)国際化 A-65)国際化 A-66)国際化 A-67)国際化 A-68)国際化 A-69)国際化 A-70)国際化 A-71)国際化 A-72)国際化 A-73)国際化 A-74)国際化 A-75)国際化 A-76)国際化 A-77)国際化 A-78)国際化 A-79)国際化 A-80)国際化 A-81)国際化 A-82)国際化 A-83)国際化 A-84)国際化 A-85)国際化 A-86)国際化 A-87)国際化 A-88)国際化 A-89)国際化 A-90)国際化 A-91)国際化 A-92)国際化 A-93)国際化 A-94)国際化 A-95)国際化 A-96)国際化 A-97)国際化 A-98)国際化 A-99)国際化 A-100)国際化
(6)	臨床実習開始までの基礎的実習を含めた技能教育に関する学修目標の新設 F シミュレーション実習 (模倣実習・相互演習 (実習))
(7)	教養教育と専門教育の統合 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康増進、B-4-2) 保健医業務計、C-1) 基礎臨床科学

「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」の実質化

A-1)プロフェSSIONALISM (医の倫理と生命倫理/患者中心の視点/歯科医師としての責務と職業観)  
 教養ゼミ、国際歯科学連携演習 (1年) → 早期臨床体験実習 (2年) → 歯学研究演習、臨床実習演習、卒業 (3年) → 卒業検定 (5年) → 臨床実習 (6年)  
 ※早期から段階的にプロフェSSIONALISMを醸成する

(4) 診療参加型臨床実習の充実 G臨床実習 別表「臨床実習の内容と分類」  
 ※臨床実習ポートフォリオを構築

(5) 国際社会への対応 A-7-1) 地域医療への貢献、A-5) チーム医療の実践、A-4) コミュニケーション能力、B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の連携、G-4) チーム医療・地域医療  
 教養ゼミ (1年)、医療コミュニケーション基礎論、対人コミュニケーション論 (2年) → 社会福祉学 (4年) → 人・高齢者科学、臨床心理学、総合歯科実習 (5年) → 臨床実習による往診への参加 (6年)

(6) 臨床実習開始までの基礎的実習を含めた技能教育に関する学修目標の新設 F シミュレーション実習 (模倣実習・相互演習 (実習))  
 早期臨床体験実習 (2年) → 臨床基礎実習 (3、4年) → 臨床実習 (6年)

(7) 教養教育と専門教育の統合 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康増進、B-4-2) 保健医業務計、C-1) 基礎臨床科学  
 初級生化学、一般化学 (1年教養教育科目)



標準化された病態模型を用いた客観的歯科臨床技能評価方法の開発

文部科学省大学改革推進補助金(大学改革推進事業) 大学間連携共同教育推進事業 (第1期) 広島大学・東北大学

連携機能を活用した歯学教育高度化プログラム

病態模型	実習目標	評価項目	結果(得点)
歯石除去	歯石除去の必要性を説明できること 歯石除去の手順を説明できること 歯石除去の器具の名称を説明できること	歯石除去の必要性を説明できること 歯石除去の手順を説明できること 歯石除去の器具の名称を説明できること	歯石除去の必要性を説明できること 歯石除去の手順を説明できること 歯石除去の器具の名称を説明できること
歯石除去	歯石除去の必要性を説明できること 歯石除去の手順を説明できること 歯石除去の器具の名称を説明できること	歯石除去の必要性を説明できること 歯石除去の手順を説明できること 歯石除去の器具の名称を説明できること	歯石除去の必要性を説明できること 歯石除去の手順を説明できること 歯石除去の器具の名称を説明できること

※評価項目により評価の一言が低いものがあった。評価の客観性・信頼性を高める必要がある。「模倣」、「課題文」、「評価シート」、「評価マニュアル」を整備するとともに、「評価カセット」、「手順すり合わせ」の開発が有効と考えられる。

**新モデル・コア・カリキュラムを踏まえた  
新カリキュラム構築への取り組み**

徳島大学歯学部

**カリキュラムの見直し**

- ▶ 教育目標基盤型カリキュラムから  
学習成果基盤型カリキュラムへの移行
  - ▶ 卒業時のコンピテンスの設定
    - ▶ 歯科医学教育の「歯科医師として求められる基本的な資質と能力」を含む
- ▶ 1年6ヶ月間の教養教育の1年間への短縮
  - ▶ 基礎歯学・医学の教育の前倒し
  - ▶ 教養教育院との連携(臨床心理学、倫理教育、英語能力、書く力、問題解決能力の育成)
  - ▶ 社会人特別選抜入試時期の見直し

**主な項目への具体的対応**


- ▶ 超高齢社会への対応
  - ▶ 老年歯科学(産学中心から演習を含む)
  - ▶ チーム医療教育の充実
    - ▶ 医・歯(業)の学生でのPBLの実施(1年次、4年次)
- ▶ 災害歯科医療への対応
  - ▶ 法歯学の充実(身元確認法)
- ▶ リサーチマインドの涵養
  - ▶ 高学年での研究室配属の実施(現在は3年次学生のみ)
  - ▶ 学会での発表会推進

**診療参加型臨床実習の改善**

- ▶ 自験症例の見直し
  - ▶ G 基本診察法、基本臨床技能の修得のためのミニマムリクエストの見直し ← 患者の確保
  - ▶ 訪問診療、在宅診療の臨床実習の実施
    - ▶ 県歯科医師会との調整が必要
    - ▶ 訪問施設の開拓 ← 広範
    - ▶ 協力研修施設の確保
  - ▶ チーム医療
    - ▶ 周術期口腔機能管理、NSTの学生の参加
  - ▶ ポートフォリオの導入
    - ▶ 省察による自己主導型学修
    - ▶ e-ポートフォリオの構築

**臨床実習終了時の技能評価**

- ▶ 補充実習の充実
  - ▶ 技工実習からファントムを使用した診療実習へ
    - ▶ 安心・安全、清潔・不潔などへの対応
    - ▶ シムロイドの利用
- ▶ 知識の評価から技能の評価へ
  - ▶ 一斉テストの導入
  - ▶ 臨床実地試験の導入
    - ▶ 2018年度 トライアルへの参加



**カリキュラム(概要)**


1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
一般教養		基礎歯学		臨床基礎歯学		臨床基礎歯学		包括的歯科医学			
大学入門講座 教養科目群 基礎科目群 口腔と健康 歯学概論		解剖学 歯学 生化学 細胞学 歯科理工学		予防歯科学 口腔内科学 口腔放射線学 歯科材料学 歯科放射線学		予防歯科学 口腔内科学 口腔放射線学 歯科材料学 歯科放射線学		臨床医学 臨床検査 経口臨床検査 経路歯科学 老年歯科学 口腔インテグレーション		臨床医学 臨床検査 経口臨床検査 経路歯科学 老年歯科学 口腔インテグレーション	
チーム医療入門		歯学 歯学 歯学		歯学 歯学 歯学		歯学 歯学 歯学		歯学 歯学 歯学		歯学 歯学 歯学	
		研究基礎ゼミ1		研究基礎ゼミ2		研究基礎ゼミ3		研究基礎ゼミ4		研究基礎ゼミ5	
		早期体験実習		医の倫理と安全対策 診療コミュニケーション チーム医療 歯科英語		医の倫理と安全対策 診療コミュニケーション チーム医療 歯科英語		医の倫理と安全対策 診療コミュニケーション チーム医療 歯科英語		医の倫理と安全対策 診療コミュニケーション チーム医療 歯科英語	

**カリキュラム(概要)**

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
一般教養		基礎歯学		臨床基礎歯学		臨床基礎歯学		包括的歯科医学			
大学入門講座 教養科目群 基礎科目群 口腔と健康 歯学概論		解剖学 歯学 生化学 細胞学 歯科理工学		予防歯科学 口腔内科学 口腔放射線学 歯科材料学 歯科放射線学		予防歯科学 口腔内科学 口腔放射線学 歯科材料学 歯科放射線学		臨床医学 臨床検査 経口臨床検査 経路歯科学 老年歯科学 口腔インテグレーション		臨床医学 臨床検査 経口臨床検査 経路歯科学 老年歯科学 口腔インテグレーション	
チーム医療入門		歯学 歯学 歯学		歯学 歯学 歯学		歯学 歯学 歯学		歯学 歯学 歯学		歯学 歯学 歯学	
		研究基礎ゼミ1		研究基礎ゼミ2		研究基礎ゼミ3		研究基礎ゼミ4		研究基礎ゼミ5	
		早期体験実習		医の倫理と安全対策 診療コミュニケーション チーム医療 歯科英語		医の倫理と安全対策 診療コミュニケーション チーム医療 歯科英語		医の倫理と安全対策 診療コミュニケーション チーム医療 歯科英語		医の倫理と安全対策 診療コミュニケーション チーム医療 歯科英語	

**技能教育**



4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
臨床基礎実習		臨床実習前実習		臨床実習	
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基本診察技術の習得</li> <li>▶ シミュレーション実習</li> <li>▶ 小児歯科</li> <li>▶ 矯正歯科</li> <li>▶ 口腔外科</li> <li>▶ 歯科材料</li> <li>▶ 歯科放射線</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ PBL: 問題解決能力の習得</li> <li>▶ SGD</li> <li>▶ シミュレーション実習</li> <li>▶ 補完実習</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 診療参加型臨床実習・学外臨床実習(訪問、在宅診療を含む)</li> <li>▶ 臨床実地試験(巻戻)</li> <li>▶ 一斉技能試験</li> </ul>	
共用試験CBT OSCE		共用試験CBT OSCE		共用試験CBT OSCE	
臨床実地試験(知識)		臨床実地試験(知識)		臨床実地試験(知識)	
臨床実地試験(技能)		臨床実地試験(技能)		臨床実地試験(技能)	



平成29年度 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ  
2017年7月26日 於 東京慈恵会医科大学

**九州大学歯学部における学修成果  
基盤型教育への取り組み**

九州大学歯学部

**九州大学歯学部カリキュラムの概要**

1年次: **歯科医学総論**(歯学オリエンテーション)、**歯学英語1**  
基幹教育科目(文系科目、理系科目、基幹教育セミナー、**学術英語1** ほか)

2年次: **歯科医学総論**(**歯学総論1, 2**)、**歯学英語2**、**学術英語2**  
基礎歯学(解剖学、組織学、発生学、口腔生理学、口腔生化学、口腔微生物学)

3年次: **歯科医学総論**(**歯学総論3**)、**歯学英語3**  
基礎歯学(口腔病理学、歯科薬理学、歯科理工学)  
**口腔保健学**(小児歯科学)  
**臨床歯学**(歯科保存学1、口腔画像診断学1、歯冠補綴加工義歯学)  
関連科目(病態制御学:系統医学科目)

4年次: **歯科医学総論**(**歯学総論4**、アーリー・リサーチエクスポート)、**学術英語3**  
**口腔保健学**(口腔保健学、環境衛生学、障害者歯科学、歯科矯正学)  
**臨床歯学**(行動科学1, 2、歯科全身管理学、歯科麻酔学、口腔画像診断学2、全部床義歯補綴学、歯科保存学2、歯周病学1、部分床義歯補綴学、口腔インプラント学、顎口腔科学)  
高年次基幹教育科目(インフォームドコンセント、薬害、臨床倫理 ほか)

5年次: **歯科医学総論**(**歯学総論5**)、**歯学英語3**、**学術英語3**  
**臨床歯学**(口腔感染・炎症治療学、口腔腫瘍外科学、顎顔面形成外科学、歯周病学2、**歯科臨床実習**)  
関連科目(歯科法医学、人類遺伝学)

6年次: **歯科医学総論**(**歯学総論6, 7**)  
**臨床歯学**(**歯科臨床実習**、アドバンス臨床実習)

卒業要件:248単位

**歯学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)との対応**

A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力  
**歯学総論1~7**、基幹教育科目(文系科目、理系科目、基幹教育セミナー ほか)、行動科学1, 2、高年次基幹教育科目(インフォームドコンセント、薬害、臨床倫理、地域包括ケアシステム ほか)、アーリーエクスポート、リサーチエクスポート

B 社会と歯学  
**口腔保健学**(口腔保健学、環境衛生学 ほか)

C 生命科学  
基礎歯学、関連科目(病態制御学 ほか)、基幹教育科目(理系科目 ほか)

D 歯科医療機器(歯科材料・器械・器具)  
歯科理工学、高年次基幹教育科目(医療イノベーション)

E 臨床歯学  
**臨床歯学**、**口腔保健学**(小児歯科学、歯科矯正学)、**関連科目**(病態制御学 ほか)

F シミュレーション実習(模型実習・相互演習(実習))  
**臨床歯学**(模型実習ほか)、臨床シミュレーション実習、臨床予備実習、行動科学1, 2

G 診療参加型臨床実習  
**歯科臨床実習**、アドバンス臨床実習

**多様なニーズに対応できる歯科医師の養成**

➤ 診療参加型臨床実習の充実による臨床能力の向上

- 臨床実習期間の拡大[32週→44週](2017-18年度～)
- 一口腔単位の診療の導入(2017-18年度～)
- 「臨床実習後臨床能力試験トライアル」の実施(2018年度～)  
(現行は「アドバンスOSCEトライアル」として全診療科で実施中)
- アドバンス臨床実習(2019年度～)

➤ 医療倫理・医療安全、チーム医療・多職種連携、地域包括ケアシステム、健康長寿社会への対応、および実践的臨床能力の獲得

- 行動科学、歯科全身管理学、統合系科目(TBL・PBL) ほか
- 医療系統合教育科目(医系部局合同授業)
- 『課題解決型高度医療人材養成プログラム』による授業 ほか

**九大歯学部独自の特色あるカリキュラム**

➤ **アクティブ・ラーナー**の育成：  
高度な知識および知の活用方法の習得&実践

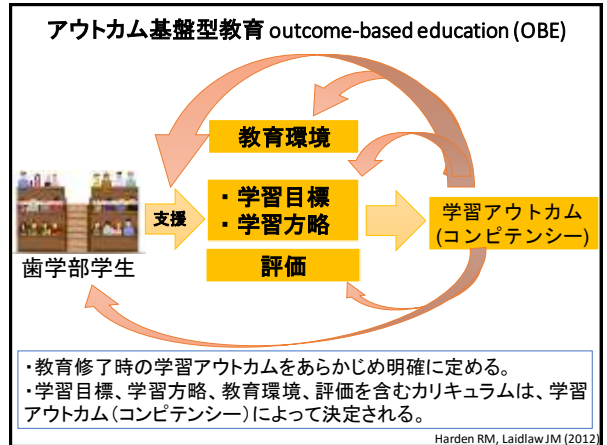
- 低年次基幹教育科目：基幹教育セミナー、課題協学科目、サイバーセキュリティ科目 ほか
- 歯学部統合系科目**：歯学総論1(2年次 PBL)、歯学総論2~6(2~6年次 TBL) ほか
- 高年次基幹教育科目：インフォームドコンセント ほか

➤ **国際人**として活躍できる人材の育成

- 歯学英語**1, 2, 3, 5(1, 2, 3, 5年次 歯学関連英語)
- 学術英語**1~3(1, 2, 4, 5年次 学術関連英語)
- TOEFL受験(1, 2, 3, 5年次)
- 釜山大学歯学部、ガジャマダ大学歯学部との交流事業 ほか

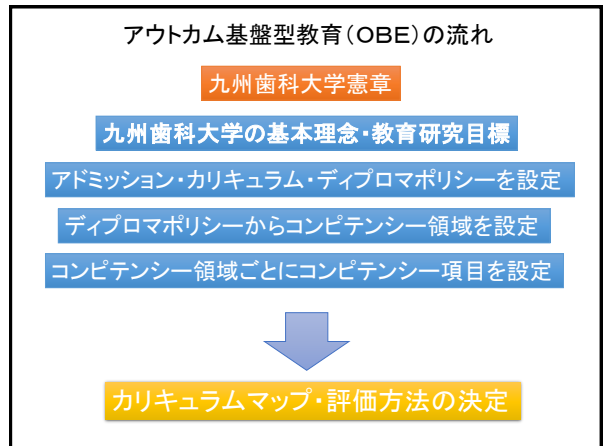
➤ **研究リーダー**、**リサーチマインド**を有する臨床医の輩出

- アーリーエクスポート、リサーチエクスポート(4年次)
- シンポジウム「Kyudai Oral Bioscience (KOB)」 ほか



本学のアウトカム基盤型教育(OBE)プログラム

	2015	2016	2017	2018	2019
情報収集	・OBEに関する国内外の情報・資料収集		・学生の意見を収集		
コンピテンシー開発	・本学の教育理念に基づくコンピテンシーの作成				
OBEプログラム開発・実施	・九州歯科大学方式OBEプログラムを開発		・OBEプログラムの実施	・修正版OBEプログラムの実施	・本格的OBEプログラムの実施
プログラムの評価	・プログラム評価法の開発		・事後評価・修正版プログラムの立案	・事後評価・プログラムの確定	・事後評価・学会等、国内外へ情報発信



九州歯科大学憲章 平成27年10月1日制定

1. 前文  
平成26年に創立100周年を迎えた九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療を提供できる人材の育成を第一義に掲げ、全人的歯科医学教育活動を展開します。  
新たな大学づくりに踏み出すにあたり、ここに「九州歯科大学憲章」を掲げ、学生、教員、職員の3者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します。

2. 九州歯科大学の基本理念  
九州歯科大学の基本理念を以下のとおり定め、九州歯科大学がどのような人材の養成、社会貢献、および研究活動を展開するのかをここに明らかにします。

- 1) 高度な専門性を持った歯科医療人の育成
- 2) 地域医療の中核的役割を果たす
- 3) 歯科医学を支える研究の推進

学年	1	2	3	4	5	6
基礎系科目	基礎系科目	基礎系科目	基礎系科目	基礎系科目	基礎系科目	基礎系科目
臨床系科目	臨床系科目	臨床系科目	臨床系科目	臨床系科目	臨床系科目	臨床系科目
総合系科目	総合系科目	総合系科目	総合系科目	総合系科目	総合系科目	総合系科目
選択系科目	選択系科目	選択系科目	選択系科目	選択系科目	選択系科目	選択系科目
必修系科目	必修系科目	必修系科目	必修系科目	必修系科目	必修系科目	必修系科目

奥羽大学歯学部 カリキュラム(案)

① 人間性豊かで優れた資質を有する医療人の育成

医療人としてのコミュニケーションに必要な基本的態度・知識・技能を修得する必要がある。  
第1～第3学年では、この一貫した共通目標を持たせた**歯科医療人間学**を設定。

医療に対するニーズや問題を探求し、それを解決する力を身に付けさせるために、第1～第3学年では、アーリーエクスプロージャーを踏まえた**医学概論**を設定。

患者の立場と背景を理解し倫理観を涵養させるために、第1学年と第2学年で**リベラルアーツ**を設定。

② 生涯歯科医師として自己開発に努める習慣の育成

第1～4学年では、歯科医師として生涯にわたる研究心や探究心を育成させるため、学年や基礎、臨床を問わず学生自身が興味を持つ分野を選択し、出向して学修できる**エレクトティブ・スタディ(ES)**を設定。

③ 各学年における総合的な知識の確認

第1学年では**チーム医療学演習**および**総合歯学1D**、第2学年では**総合歯学2D**、第3学年では**総合歯学3D**、第4学年では**CBT総合講義**、**CBL演習**、**臨床総合演習**、第5学年では**基礎系科目試験**、**全科必修試験**、**臨床実習総合試験(5D)**を設定。

第1～第3学年の履修科目では、各科目の到達目標に対して学生間に差が生じないよう、目標達成度の低い学生を対象に少人数で強化的に学修する**科目選択ゼミナール**を設定。

④ 歯科医師として歯科口腔疾患の病態の解析と治療概念を把握、診断と適切な治療計画を立案する能力の育成

第1学年と第2学年では「**理科系科目(+実習)**」を設定。

第2学年と第3学年では基礎系科目による「**歯科基礎医学(+実習)**」、「**歯科基礎病態学(+実習)**」、「**歯科基礎病態治療学(+実習)**」を設定。

第3学年と第4学年では臨床系科目による「**歯科口腔診断学**」、「**歯科口腔診断治療学(+実習)**」を設定。

⑤ 歯科医師として社会、地域のニーズに対応できる能力の育成

第5学年では先進的で高度な歯科医療技術を身に付け、さらに超高齢社会のニーズに対応し、地域特性を踏まえた包括医療を実践するプロフェッショナルを育成するため、**臨床実習(診療参加型)**と基礎系科目を再度履修するための**Evidence research研修**、他職種連携を学ぶための**Medical Team研修**や社会福祉施設、介護老人保健施設での**学外研修**を設定。

⑥ 歯科医師国家試験に合格するための最終的な知識の確認

第6学年では歯科医師国家試験出題基準に則った授業時間を各科目に割り当て、**臨床総合演習**を設定。